



SAGAアイスアカデミー

NPO法人 鳳雛塾

オリジナルアイスの企画から販売まで。

佐賀県民熱愛のアイスバー「ブラックモンブラン」で有名な竹下製菓㈱の協力のもと、アイスクリームの商品開発を行いました。ターゲットを絞り、味・見た目・パッケージ・商品名を考え企画発表会に挑みます。優秀作品は試作し、マーケティング調査によりブラッシュアップ。ついに「梅恋」と「カタナイス」が完成しました。いろいろな会場で販売し、「カタナイス」はお客様に制作体験してもらおうコーナーも作りました。



1 アイスクリームのパッケージデザインについて学びました。お店でなにげなく見ているものも、とてもよく考えてつくられています。
2 アイスの企画発表会の様子。「カタナイス」のポーズも決めて会場の注目を浴びました。 3 「カタナイス」はチョコレートをかける分量がちょっと難しい。 4 アイスの味と色味を確認。竹下製菓㈱の工場で実際にアイスを作ってみました。【平成29年度事業】



1 パッケージのシール貼りも、ひとつひとつ丁寧に。 2 ショッピングモールでの『カタナイス』の制作体験。子どもたちがレクチャーしてお客様に作ってもらいました。 3 中学生が企画した「theスケとるやん」は商品化を視野に入れ、竹下製菓(株)で鋭意研究中。 4 食糧自給率アップのために小学生が企画したお米のシューアイスを製品化した「Go Go Gohan! × HIROTA」の当時のメンバー(千葉県)に先輩として講演してもらいました。 5 「カタナイス」は刀の形のアイス。“柄”はイ草の棒、“鏝(つば)”は丸ぼうろでできていて、全部食べることができます。【平成30年度事業】





キッズドリーム基山

基山町商工会青年部



子どもたちと地域の夢が詰まった初めの一步。

平成24年から基山町内で仕事体験イベントを行ってきた基山町商工会青年部。平成29年度は基山町内の実際の職場でプロの仕事を体験し、お給料(模擬紙幣)をもらい、それを使う喜びも体験しました。平成30年度はさらに深掘りし、子どもたちが地域の飲食店で提供する地元食材を使ったメニューを開発。基山町の特産品について学び、それを使ってどんなメニューができるかアイデアを出し合い、エミューの肉などを使ったカレー、どんぶり、炊き込みご飯の新メニューを完成させました。

1 基山町内の工場や実際の店舗などでの仕事体験。居酒屋では実際に刺身包丁でお刺身を切りました。 2 ふだん見ることのできない量の食材や、プロの手さばきに、驚きの連続。 3 大工の仕事体験。電動工具を使っの作業はプロの職人が手ほどきを。 4 仕事体験を終えて支払われる“オリジナルの金券”で食事ができます。【平成29年度事業】



1 最初はふるさどを知ることから！基山町の町おこしとして登場した「エミュー」に会いに行きました。はじめて見るエミューに大はしゃぎ。 2 メニューが決まったら子どもたちのアイデアをプロの料理人が形にしていきます。 3 どんなアイデアが出たかな？子どもたちの発言に、会場内に笑顔がこぼれます。 4 メニューの発表会。このメニューに決めた経緯や、素材の費用や素材単価なども発表します。

右ページ／基山町の特産品が詰まった「カレーライス」が出来上がりました。エミューの肉や柿がポイントです。【平成30年度事業】



アリタ・フューチャー・センター・ラボ

Arita future Center Lab

アリタポーセリンラボ(株)

有田焼でつくるクリスマスのテーブルウェア。

クリスマスをテーマにした有田焼の商品開発を行いました。実際の職場で有田焼の製造工程をプロから学び、オリジナル商品を制作し、販売まで行いました。



子どもたちが考えた「だれでもサンタマグカップ」。コレさえあれば、飲み物を飲むときは、誰もがサンタクロース!! 子どもたちの発想力に驚きです!



1 やぎものの商品企画は、なかなか難しいけど楽しい作業です。 2 グリーンランド国際サンタクロース協会の公認サンタクロース(日本代表)のパラダイス山元さんのアドバイスを受けながら、製品のアイデアを練っていきます。 3 みんなでクリスマスイルミネーションの中、記念撮影。 4 イルミネーションの点灯式で、焼き上がった商品を販売しました。



学び 考え 伝える 佐賀さいこうマインド

佐賀市はシシリアンライスdeどっとこむ



佐賀のPRポイントとは何か?それを考えるためにいろいろな場所を訪れました。三重津海軍所跡(佐野常民記念館)ではボランティアガイドから伝え方のコツについて学びました。

県外に向けた佐賀のPRを考える。

地元佐賀について学び、県外のお客様へのPR方法を子どもたちが考えました。いろいろな場所で実際に話を聞き、PRプランを考え、兵庫県明石市で開催された西日本B-1グランプリの会場で多くの方に佐賀の魅力をクイズを使って伝えました。



1佐賀城本丸歴史館では佐賀の歴史について学びます。2佐賀市のバルーンミュージアムにて。バルーンのゲームも、その楽しさを体験してみなくては伝えられません! 3バルーンミュージアムの「バルーンフライトシミュレーター」で佐賀市を上空から観察!まるでバルーンパイロットになった気分。4平成29年11月に開催された、西日本B-1グランプリin明石での発表の様子。



SAGA食べ物語 — 子どもたちの子どもたちによる「こども食堂」 —

NPO法人 Succa Senca



みんなで買い物に行き食材を準備して、役割分担しながら料理を作ります。

子どもが考える、佐賀の旬を味わう「こども食堂」。

生産者から直接話を聞き、農産物の「旬」や生産現場のことを学び、佐賀の農産物を使った「こども食堂」のメニューを考え、作り、提供しました。



1



2



3



4

1 子どもたちのアイデアが詰まった、旬の食材を使ったメニューが出来上がりました 2 みんなが集まったら「いただきます！」
3 4 平成29年12月に佐賀市で開催された“子どもの居場所シンポジウム”の「子ども食堂」で作った、佐賀の旬の野菜を使ったカレーも好評でした。



ぼくらの西多久見聞録

西多久町子供クラブ連合会



地域の魅力を調査！伝える楽しさを知る見聞録づくり。

西多久地区の小学生から中学生までの、ほぼ全員で取り組んだこのプロジェクト。西多久の歴史や特産品について地域の人たちにインタビューして『見聞録』としてまとめました。冊子をつくりあげる中で、大人も教える立場として歴史を学ぶきっかけになり、さらには子どもたちを介して地域の絆が強くなることにもつながりました。



1 2 地区の公民館が『西多久見聞録』の編集部です。チームに分かれ、文化や歴史、農業などのテーマを絞って取材内容を決めていきます。自分のアイデアを作成シートに書き込んで、みんなでアイデアを出し合いました。 3 地区の方にふるさとのことを教えてもらいました。子どもたちは興味津々！それに応える大人もしっかり対応します。 4 さあ！ふるさとの魅力を探す冒険のはじまりです。どんな魅力が見つかるかな？